

幼保連携型 認定こども園 誠和幼稚園 令和7年度 全体計画「教育及び保育の内容」

教育保育理念 (事業運営方針)		地域の子供たちの発達にふさわしい環境と幼児教育を提供する。中津川の豊かな自然を愛し、将来困難にであっても乗り切る力を身に着ける力を育て、親も子どもも育つことに貢献する。				教育保育方針		乳幼児が満足感・充実感・意欲が培われるように一人一人の能力に合わせる方針。こどもの眼・耳・手・足になり子どもの心に寄り添う方針。共に泣き・喜び合う方針。劣等感を与えないで、困難にであっても逃げないで乗り切る方針							
園の教育保育目標		養護『生命の保持と情緒の安定を図ることを目標にし、教育では、健康・安全で幸せな生活のための基本的生活習慣・態度を育て、困難に出会っても自分で切り開く健全な心身の基礎を培う。人への信頼感を育て、自立と協													
子どもの教育保育目標 (教育保育目標、保育の内容とともに年間指導計画の基礎事項、年間指導計画、行事のねらいは別紙)		乳児	養護に包まれて温かい雰囲気の中で命を護り、情緒の安定を図る。温かい雰囲気の中で生きる力を与える。		3歳児	全てのこども「障がい児を含め」家庭の環境により甘えたい子を受け入れること、三つの柱(知識・技能、思考力・判断・表現力、非認知能力)を身に着ける。		教育保育時間	平日7時30 分から18時30分 教育時間10時から14時、土曜日は7時から18時まで						
		1歳児	言葉や身体的な発達が著しい時期として保育者が命を守り、甘えを受け入れ、生理的欲求を満たし、病気にさせない保育をする。		4歳児	四歳児は育った環境によって資質と能力に差があることを理解し、発達を保育のになかで育てる。		主な行事(日常の節目としての行事設定)	入園式・遠足・参観日・運動会・発表会・お別れ会						
		2歳児	個人差が激しい時期の中、養護の土台の上で発達が保障される実践をする。		5歳児	卒園までに困難に対処する力と主体性を身に着けるための適切な環境と教材を一人一人に配慮する									
■こども園保育に関する基本原則／役割目標		■保育の方法／環境		■こども園の社会的責任		■養護に関する基本的事項		■保育の計画と評価		■幼児教育を行う施設として共有すべき事項		◎小学校との連携(接続)			
乳幼児の最善の利益を考え、保護者の育児相談・親子の集い事業・子育て支援関連情報提供等を行う。		養護と教育を正しく理解し、乳幼児の発達(三つの柱)そして発達を偏らない五領域による、子どもへの物的環境・人的環境・温かい愛のある雰囲気を与える。		地域の中で子育て相談をすることで安心して子育てができるための機能を発揮する。また、地域の行事を通して乳幼児の発達を促す施設となる。さらに地域の人々とかわかることで乳幼児にとっても安定する場が与えられる。		養護は命を護り、情緒を安定すること、生理的欲求を満たすこと、保健衛生的な環境を通して病気にさせないために保育者がする五領域の健康で行う訓練や鍛錬とは全く違うこと。温かい愛のある雰囲気が与えられる環境が将来の「生きる力」にまで影響をします。		保育の計画は保育計画と指導計画があり、保育計画はすべての年齢の養護(大人の活動)と子どもの発達を見つけ援助の在り方を計画する。指導計画は年間・月案・週案・日案があり養護のねらい内容・教育のねらい(発達の方向性)と指導したい内容に分かれている。評価は乳幼児の一人一人の発達を点検・評価、改善すること。		養護の命を護る、情緒の安定を図るために物的環境として安全・保健的、乳幼児の立場になった環境を留意する。さらに発達として三つの柱を身に着けるための施設と設備を子どもの目・耳・手・足となるように配慮する。子どもが主語として捉えることが基本といえる。		こども園と小学校の教育についてお互いが理解するために気になる子だけでなく一人一人の発達した記録を点検・評価して連携する。園の先生と小学校の先生の交流を通して幼児教育の中身と小学校教育の実践を話し合う。こども園と小学校の環境について物的・人的・雰囲気を理解して発達を正しい情報を持つことを重要といえる。			
■保育の目標		十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること。健康・安全													
■養 護 (保育教諭が行う事項)	年齢	乳児		1歳児(満1歳より)		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		◎小学校以上との連携に鑑みて	
	生命の保持	乳児一人ひとりが快適に生活できるようにする。		一人ひとりが健康で安全に過ごせるようにする。		一人ひとりの生理的欲求が満たされ温かい愛のある雰囲気を感じよう。		一人ひとりの健康増進が積極的に図られるようにする。		一人ひとりが十分愛され、心が満たされるようにする。		一人ひとりが快適で安全な生活ができるようにする。		一人ひとりの発達を三つの柱で正しくとらえて客観的な資料を小学校に届ける。卒園までに10の姿を点検・評価し将来の生きる力に結びつける話し合いが必要といえる。小学校の見学と子どもたちが安心できる体制が必要です。	
	情緒の安定	一人ひとりの甘えを受け入れること。		一人ひとりが自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。		周囲から主体として受け止められ、自分を肯定する気持ちが育まれるようにしていく。		一人ひとりが受け入れられ、クラスの中で安定して生活して過ごせるようにする。		一人ひとりの心身の疲れが癒されるようにする。		クラスの中で大切にされていることを自覚して安心できるようにする。			
◎ねらい及び内容並びに配慮事項 (養護と教育は一体となって展開されることに留意)															
◎教 育 (園児が環境に関わって経験する事項)	(乳児)3つの視点	乳児		(満1-3歳未満児)5領域	1歳児(満1歳より)	2歳児		五領域	3歳児	4歳児		5歳児		乳幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 10項目	■教育・保育において育みたい資質・能力の3本の柱
	健やかに伸び伸びと育つ	健康で安全な生活を作り出す力を養う。		健康	明るく伸び伸びと行動し充実感を味わう。	自分の身体を十分に動かし、進んで安全に行動しようとする。		健康	健康な生活リズムを身に着け、楽しんで食事をしたり、行動しようとする。	身の回りを清潔にし、衣服の着脱・排泄・食事などの生活に必要な活動を自分からしようとする。		自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行おうとする。		健康な心と身体	知識と技能では、押し付けることや頑張ればだれでも「できる」といった精神論をしない。自分から行動できる主体性を大切にして知識も技術も身に付ける保育を取り入れる。
	身近な人と気持ちよく通じ合う	保育者や友達と親しみ、人と関わる力を養う。愛情や信頼感を持つ。		人間関係	身近な人々と親しみ、かわわりを広める。	他の人々と親しみ、支え合って生活し人と関わりを広める。		人間関係	園生活を親しみ自分の力で行動する力を養う。	安心できる保育教諭との関係の中で身近な大人や友達に関心を持ち、模倣して楽しんだり、親しみをもって自らかかわろうとする。		友だちと一緒に行動する中で、共通の目的を見出し、協力して「事物」をやり遂げようとする気持ちを持つ。		共同性	
	身近なものに関わり感性が育つ	周囲の様々な環境に好奇心をもつて行動する。発見を楽しむ。考えたり、楽しんで生活しようとする。		環境	安心できる人的・物的・温かい雰囲気の下で見る・聞く・触るなどを味わう。	生活の中で様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味・関心を持つ。		環境	身近な動植物に親しみをもち、いたわったり、大切にしたり、生き物の命の尊さを大切にしようとする。	日常生活の中で数量や図形に関心を持とうとする。共同の道具や道具を大切にみんなで使う気持ちを持つ。		身近な事象に関心を持ち、考えたり、試したりして工夫する生き方を持つ。		社会生活とのかわかり	思考力・判断力・表現力として乳幼児が発見しているところをみつけ共に共感することで考えたり、発見する力を養う。
				言葉	保育教諭の応答的なかわりや話しかけにより、自分から言葉を使おうとする。	親しみを持つ日常の挨拶をしようとする。生活の中で言葉の楽しさを味わう。		言葉	絵や物語等に親しみ、興味をもって鑑賞、想像する楽しさを味わう。	したいこと、して欲しいことを言葉で表現したり、分からないことをたずねたりする。		人の話を注意して聞き、相手にわかるように話す。日常生活の中で文字等で伝える楽しさを味わう。		自然とのかわかり・生命尊重	非認知能力 知能テストでは表すことができない挑戦・最後まで我慢してやり遂げる力・思いやり・これらの知能テストでは測ることができない目立っていることだけでない資質と能力を育てることを大切にすること
				表現	様々な素材に触れて楽しむ。	音楽に親しみ、うたうたったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。		表現	感じたこと、考えたことなどを音や動きで表現したり、自由に描いたりして楽しむ。	様々な出来事の中で感動したことを伝えあう楽しさを味わう。		自分のイメージを動きや言葉等で表現したり、演じて進んで楽しさを味わう。		豊かな感性と表現	
	◎食 育	食を営む力の基礎	離乳食を含め飲み物が飲め、食べ物が食べられたことで生きる力を体験する。		食を営む力の基礎	温かい雰囲気の中で様々な食べ物があり、味が異なり、匂いがあることを食育により味わい生きる力とする。		食を営む力の基礎	清潔で衛生的な環境の下、匂い、味、様々な食べ物や食べ方があることを体験して生きる力の基礎とする。	食を営む力の基礎	友だちと一緒に食べる大切さを味わい、一人では生かすことができない体験をして食べる楽しさを味わう。		食べるものに関心を持ち、自分たちで育てることから食べる楽しさを味わう体験をする。		様々な食べ物を食べるだけでなく野菜を育てたり、料理したり、周囲に迷惑をかけないマナーを気づいたりして生きる力の基礎とする。
★健康支援／状態把握・増進・疾病対応		食育の増進			環境及び衛生管理並びに安全管理			災害への備え			子育て支援			職員の資質向上	
期の保育者の視察と日常の身体の状態を的確に把握する。母親からの連絡ノートや送迎時に家庭との状態を理解して保育に役立てる。期末とそのまの姿で隔りに保護者に返す養護の命を護り、甘えを受け入れることで生きる力が増進される。日常の熱・肌の色・トイレなど記録をすることと観察すること。急な熱やケガに対して全員が適切な対応することと医者と連携を保護者と信頼関係をつくる。		たべられた喜びの心情、もつと食べたい意欲、食べる時のマナー等を身に付ける。野菜を育てることで生き物の命を大切にすること態度を養う。料理ができる喜びと工夫することで食育から生きる力を身に着ける。			施設において感染症又は食中毒が発生し、または蔓延しないよう配慮する。職員の清潔の保持及び健康状態について必要な衛生管理、安全管理を行うものとす。全員が環境に対して意識を高める。			非常災害に備えて、消防計画を作成し、防火管理者又は火災・消防等について責任者を定め、少なくとも毎月避難訓練をする。			保護者に子ども授かった喜びが味わうことができるように子どもの発達が理解できるような資料を配布する。月に一回(共に育つ)として保護者・地域に配布する。			様々な研修会として新規採用研修会・危機管理講習会・幼児教育発達支援研修会・行事を通して点検・評価する機会を通して保育の質を向上する。代替職員を確保して交渉を図る。	
情報公開等		毎月 保護者や地域の人々に保育の実態、さらにはホームページで保育の実態を写真等で公開する。						特色ある教育と保育			園内に置ける全職員参加で乳幼児が主語となる計画と実践をする。特に、「養護に包まれた教育がある」「乳幼児の甘えを受け入れる情緒乃安定を図る」を重点とする。				
域の実態に対応した保育事業と行事への参画		地域の施設と交流を通してお互いが理解する場をもうける。公開保育や参観日を通して発達を理解してもらう。						研修計画			園内における全教職員参加で乳幼児が主語になる計画と実践を四月・七月・十二月に点検・評価し改善に結びつける。園外の岐阜県主催の研修に積極的に参加して知識と技術を高めるために参加する。他県からの見学者と行事の在り方、運動会・クリスマス・発表会を点検・評価する。10月・12月				
自己評価等		自己点検・自己評価を7月、12月に実施して保育の改善に結びつける。立案について話し合うことで子どもが主語が反省する。保育が終了した時に保護者対応と実践に対して検討する。													